

教育基本法等関係法規 学習指導要領
東京都教育委員会 教育目標と基本方針
中野区教育委員会 教育目標と基本方針 等

学校の教育目標
ともに育つ子
いきいきと あたたくと じっくりと

中野区の南に位置し、方南通りと南台商店街に囲まれた住宅地が中心となる地域である。学校の求めに応じて、地域が様々な形で協力する状況が醸成されている。保護者は本校の教育活動を温かく見守り、協力しようとする空気がある。

学校経営方針 多田小学校の目指す姿 子ども一人ひとりがいきいきと学ぶ学校 ほか
学校経営の重点 学級・学年経営の充実、授業の改善、校内研究の充実 ほか

各教科の指導の重点
・学習規律の徹底
・基礎的・基本的な知識と技能の習得

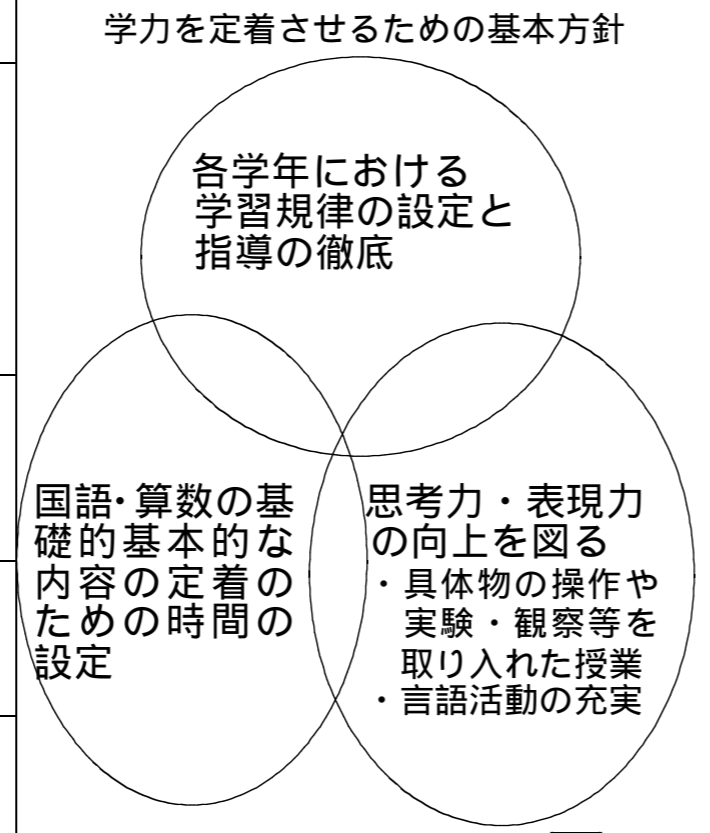
道徳教育の指導の重点
・道徳研修等による指導方法の改善

特別活動の指導の重点
・多田小まつり、中野特別支援学校との交流活動等における、児童の主体的な活動の設定

総合的な学習の時間の指導の重点
・食育等教育課題への対応

生活指導の重点
・あいさつの励行
・基本的な生活習慣の定着のための指導の徹底
・集団生活におけるルールの徹底

健康教育の重点
・元気アップライフ年間指導計画に則った指導の徹底と充実
・家庭、地域との連携による食育・健康教育の実施



学力に関わる調査から

国語 「話す力・聞く力」「読む力」については、おおむね満足がいく結果が得られた。「言語についての知識・理解・技能」については学年による違いが見られるものの、今後指導の充実を図ることが必要であると考えられる。「書く力」は本校における最大の課題であり、新学習指導要領にあるとおり、国語科を中心として各教科においても「書く活動」を設定するなどして、子どもたちに確実に力をつけていくことが必要である。

社会 全体に指導の改善を必要としていることが伺える。「社会的な思考・判断」「観察・資料活用」の3つの観点全てにわたって、おしなべて同じような状況が見られる。身近な生活と学習内容を関連付けて考えたり、社会的な事象について興味・関心を高めたりするなど、社会科の授業のより一層の充実に向けていく。

算数 「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」の到達度と比べると、「数学的な考え方」については課題であるといえる。新学習指導要領でも強調されているとおり、算数的活動の改善・充実を図ることを通して、子どもたちが「数学的な考え方」を身に付けられる授業を実現させることが急務である。

理科 「科学的な思考」「観察・実験の技能・表現」「自然事象についての知識・理解」の3つの観点に基づいた到達度は、特に大きな差が認められない。今後も、子どもたちに科学的な興味・関心のわくような授業を展開するとともに、観察・実験を通して得られた知識や技能を活用して科学的に物事を考える力を高めていくような指導を行っていくことが求められている。

学力に関わる調査の結果を踏まえ、多田小学校では、国語と算数を重点に授業改善を進める。

各学年の授業改善策（国語・算数）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	週一度「せんせいあのおね」を行い、文章を書く機会を増やす。 ひらがな、カタカナ、漢字については、週に1度はミニテストをして、定着を図る。 音読については、授業中にいろいろな方法で、たくさん音読をする機会を持つ。宿題でも毎日出していく。 家庭の協力のもと、繰り返し音読をしたり、読み聞かせをしたりする。	文を書く機会を多くし、書き慣れるようにする。 文を書く時には順序を考えて書くことができるような用紙を用意し、項目を提示して書かせるようにする。 書いた文は必ず見直し、漢字や言葉の使い方の指導を行う。 毎週、漢字のミニテストを行い、誤字については、必ず正しく書き直させる。	短文作りを行い、友達と確かめ合ったり、認め合ったりする機会を増やす。 問題文の読み取りの学習を繰り返す。 例文を繰り返し音読し、語いを増やす。	文章を書く機会を増やすとともに、書く相手や目的を児童にはっきりと提示し、意見や感想、調べたことを分かりやすく伝えられるように作文指導を続ける。 文章を書く際、既習の漢字や語句を意識して使っていくよう指導する。また、授業中に国語辞典・漢字辞典を活用し、言語への理解を深めていく。	創作文や意見文、感想文など、様々な文を書く機会を増やし、書く目的や視点をはっきり提示する。 文章を書く際、分からない言葉や漢字などは、自主的に辞書で調べられるよう、辞書の活用の仕方を工夫する。	作文指導では常に自分の考えを書くための視点を提示して指導を行うとともに、自分の考えを書く機会を増やす。 言語事項の指導では言葉集め、短作文の量を増やし、言葉に触れる機会を確保する。
算数	掲示などを作ったり、具体物を使ったりして理解しやすいような授業を行う。 特に、文章問題では、具体物や半具体物、図などを操作しながら習熟させる。 計算については、授業の始まりの5分間を使い、計算カード練習・マス計算などに取り組んでいく。	新しいことを学習する際には、既習の内容を想起させ、考え方の比較をする。 どのように考えて答えを出したのかを発表させたり、友達がどのように考えたのかを類推させたりする機会を多く取る。	具体物や身近な例を活用し、問題文のイメージをとらえやすくする。 実際に資料を整理し、数字やグラフで表したり、読み取ったりする活動を多くする。	文章題の学習では数直線、図、グラフなどを活用する。重要な部分にアンダーラインを引くなどの指導を個別に行い、問われていることを明確に押さえて立式する経験を積む。 問題解決のために考える時間を確保し、立式までの考え方を書かせたり発表させたりする機会を増やして、数学的な考え方を身に付けさせる。 授業の最後に振り返りの時間を設け、振り返りカードの内容をもとに児童の学習状況を把握し、指導方法の改善につなげる。	問題内容を理解できるよう、具体物を活用した指導を行う。 新しい学習をする際には、既習内容などを活用しながら、なぜそうなるのかという理由を必ず考える活動を行う。 計算の仕方や考え方について言葉や文で説明する機会を増やす。	文章題が苦手な児童に対しては、文章題の解き方を出来る限りシステム化し、家庭と連携して指導できるようにするとともに、問題にでてくる数量の関係を図やグラフなどに表す作業を増やす。 評価基準に未到達の児童には特別宿題を出し、個別指導をする。